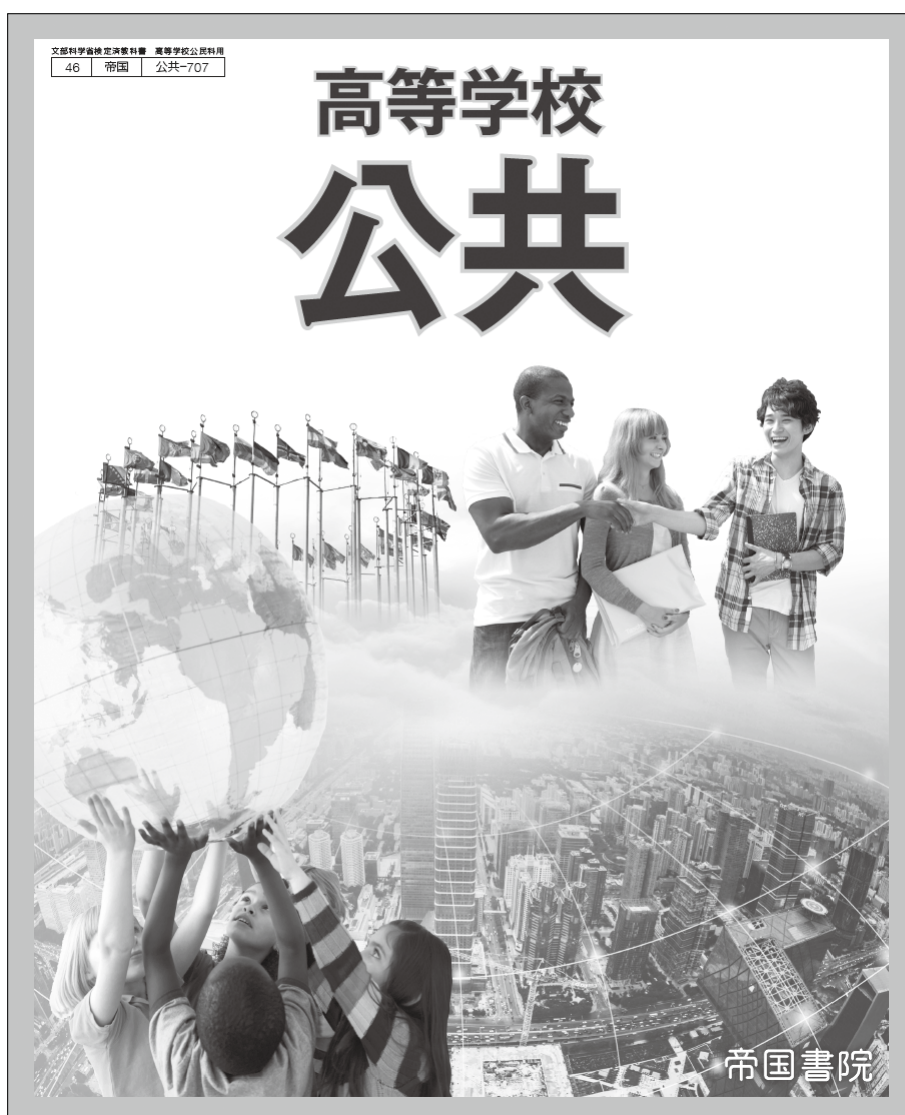


高等学校 公共【公共-707】 シラバス作成用資料



もくじ

- 1) 科目の目標..... p.2
- 2) 科目の特色と『高等学校 公共』における対応 p.2
- 3) 学習評価の手引き..... p.3
- 4) 『高等学校 公共』年間指導計画案 p.5

1）科目の目標

※『高等学校学習指導要領（平成三十年告示）解説 公民編』から引用。

①現代社会の課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる資料を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

②現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

③よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2）科目の特色と『高等学校 公共』における対応

高等学校公民科において、従来の「現代社会」は現実社会の諸課題や仕組みを客観的に理解する科目とされてきました。一方、選挙権年齢や成年年齢の引き下げを背景に誕生した新しい必修修科目である「公共」は、諸課題や仕組みを理解するにとどまらず、**学習者自身が社会にどう関わるか、どのような社会をつくっていくか、という段階まで考察を深める科目**とされ、上記の3つの目標にも、社会参画的な視点が色濃く反映されています。

そして、この目標を段階的に実現すべく、「公共」の学習内容は大きく3つのまとまり（大項目）に分けられています。

①「公共の扉」

1つ目の大項目「公共の扉」では、**公共的な空間をつくる個人や社会、また個人の考え方や、社会の基本的な原理**について学習します。実社会の課題について、施策の有効性や立場を選択したり判断したりするためには、まず自分自身について、そして自分が生きる社会における考え方や原理についての理解が必要だろう、という考えのもと、学習事項が設定されています。

『高等学校 公共』では、「第1部 私たちがつくる社会」が、この1つ目の大項目に対応しています。社会を公共空間たらしめている要素として、「青年期」、「宗教・文化」、「倫理」、「憲法」といった事項を学習するほか、複雑な社会現象を単純なモデルに置き換えて課題の背景にある考え方に注目する“思考実験”に取り組むページや、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせながら高校生に身近なテーマを考察するページなどを設け、**課題を把握したり、意見を判断・評価したりする活動を通して、これ以降の大項目における学習で必要となる考察の手法を身に付けられるように構成**しています。

②「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」

2つ目の大項目「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」では、**自分たちが生きる社会における諸課題に関連した具体的な主題を設定し、主題を追及したり解決したりする活動**を通して、社会参画に必要な力を身に付けていきます。また**主題**については、**法や政治、経済などに関わる13のテーマに沿ったもの**を設定していく必要があるとされています。

『高等学校 公共』では、「第2部 社会のしくみや諸課題」が、この2つ目の大項目に対応しています。ここでは、先述の**法や政治、経済などに関する13のテーマに対応して単元を構成**しており、**各単元末に設置された「現代社会の諸課題」という特設ページ**では、**現実社会の具体的な課題について、単元の学習や第1部で身に付けた考察の手法を生かして解決策を構想**します。

③「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」

3つ目の大項目「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」では、持続可能な地域、国家・社会および国際社会づくりの担い手として、公共の精神をもった自立した主体となるために、学習者自身が社会から課題を見出し、考察に必要な情報を収集・整理し、自分の主張をレポートの形でまとめる**「課題探究学習」**に取り組みます。

『高等学校 公共』では、「第3部 持続可能な社会の実現に向けて」が、この3つ目の大項目に対応しています。ここでは部のテーマである**「課題探究学習」を、「課題の設定」→「情報の読み取りと整理」→「課題の探究」→「探究結果の表現」という4つの段階**に分け、各段階における学習の進め方や注意点をまとめており、生徒がスムーズにレポートを作成できるように構成しています。

3）学習評価の手引き

新学習指導要領における学習評価は、従来の「知識・理解」「技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」の4観点にかわり、「**知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点**に整理して示されています。

学習評価については、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くべきとされています。また、**観点別学習状況の記録に用いる評価については、必ずしも1回の授業で3観点すべてを評価する必要はなく、原則として単元や主題などの内容のまとまりごとにそれぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価の場面を工夫**することが重要とされています。

①「知識・技能」

「知識・技能」の具体的な評価方法としては、例えば定期試験において、**事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランス**に配慮するなどの工夫改善を図ることが考えられます。また、生徒が**文章による説明**をしたり、**資料や文章を読み解いて考えたり**といった、実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことも有効です。帝国書院では、「知識・技能」の評価に活用できるコンテンツとして、例えば以下のようなものをご用意しています。

教科書	見開き末「確認」の問い	教科書	教科書QRコンテンツ「一問一答」	ノート	『高等学校 公共ノート』（別売）

本文ページの見開き末には、学習事項を振り返る「確認」の問いを設置。[〇〇を本文から探そう]という形式で、見開きごとに知識の定着を図れます。

生徒の自学自習に適したQRコンテンツです。「指導書 Webサポート」には「一問一答」のExcelデータも収録し、用語確認のプリント作成にも活用できます。

併用しやすい教科書完全準拠の構成。穴埋め形式の「確認問題」、演習形式の「基本問題」や、資料読解問題も豊富に設置。基礎から応用までカバーできます。

②「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」の具体的な評価方法としては、定期試験のみならず、**論述やレポートの作成・発表、グループでの話し合い**などの活動を取り入れたり、それらを集約した**ポートフォリオ**を活用したりするなど、評価方法を工夫することも有効です。帝国書院では、「思考・判断・表現」の評価に活用できるコンテンツとして、例えば以下のようなものをご用意しています。

教科書	見開き末「活用」の問い	指導書	指導書Webサポート（別売）「特設ページワークシート」

本文ページの見開き末には、「確認」と併せて、「活用」の問いも設置。[〇〇について考えよう][〇〇について話し合おう]などの形式で、自らの意見を表現したり、話し合ったりする機会を設けています。

「指導書Webサポート」には、教科書の特設ページに対応したワークシートのデータを収録。そのまますぐに活用するのはもちろん、Word形式のデータで収録しているため授業に合わせてアレンジすることもできます。

学 期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価規準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
第1部 第1章 第2節 宗教・思想・伝統文化と社会（3時間） 〈この節で働かせる見方・考え方〉 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、 人間と社会の多様性と共通性 など 〈主題（節の問い）〉 「公共空間とはどのような空間？」（教p.30-31「現代社会の見方・考え方」） 〈指導上の留意点〉 ・この単元では、私たちが生きる社会を形成する伝統や文化、宗教、古来の日本人の考 え方などへの理解に基づき、私たちはお互いの立場を理解し合う社会的な存在である ことについて自分の意見を表現することを通じて自らの価値観や他者の価値観、それ らを形成する背景や要因について理解させる。 ・学校や家庭、地域社会といった身近な日常空間に関連した具体的な問いを設定するよ う留意する。						・人間は、個人として相互に 尊重されるべき存在である とともに、対話を通して互 いのさまざまな立場を理解 し高め合うことのできる社 会的な存在であること、伝 統や文化、先人の取り組み や知恵に触れたりすること などを通して、自らの価値 観を形成するとともに他者 の価値観を尊重することが できるようになる存在であ ることについて理解してい る。	・社会に参画する自立した 主体とは、孤立して生き るのではなく、地域社会 などのさまざまな集団の 一員として生き、他者との 協働により当事者として 国家・社会などの公共 的な空間を作る存在であ ることについて多面的・ 多角的に考察し、表現し ている。	・公共的な空間にお ける課題の解決を 視野に、主体的に 社会に関わろうと している。
1 学期	5	7	p.24-25 1 宗教について考え よう	科学技術が発達した現代でも、宗教が必要とされるのは、なぜだろうか。	・p.30-31「公共空間とは どのような空間？」の主題 を活用しながら、現代的な 課題の見方・考え方を指導 する。 ・宗教のもつ多様な側面を 紹介しながら、特定の宗教 を取り上げすぎないように 留意する。	・宗教が人々に与えている ものを理解するために必要 な知識を理解し身に付けて いる。	・人々の生活と宗教の関わり に関する資料を収集し、宗教 が人々の生活にもたらすもの について思考し、その内容を わかりやすく表現している。	
1 学期	5	8	p.26-27 2 日本の思想について 考えよう	日本の思想は、どのように成立してきただろうか。	・多面性をもつ日本の思想 の進展を学ぶにあたって、 項目の羅列に終始しないよ うにする。	・日本人の思想について、 その特色を捉えるために必要 な知識を理解し身に付けて いる。	・日本の思想を代表する資料 を収集し、日本人の考え方 の特色について思考し、思想 の変遷についてわかりやすく 表現している。	
1 学期	5	9	p.28-29 3 日本の伝統と文化に ついて考えよう	日本の伝統や文化には、どのような特徴があるだろうか。	・p.186-189導入「和食の 食材はどこから来ている？」 や、p.194-195「グロー バル化と自由貿易協定」な どの学習との関連を意識し た上で、第3部の課題探究 学習につながるよう指導 する。	・文化の継承や創造、発信 について、その特色に対応 できる知識を理解し身に付 けている。	・日本特有の文化や伝統の 資料を収集し、日本の伝統 や文化の多様性について思 考し、その継承と展開につ いて、自らの意見や主張を わかりやすく表現している。	
第1部 第2章 第1節 倫理的な見方・考え方（5時間） 〈この節で働かせる見方・考え方〉 幸福、正義、公正、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方、 行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方 など 〈主題（節の問い）〉 「『正義』の葛藤と生命倫理」（教p.40「思考実験をやってみよう」） 「『共有地の悲劇』と環境問題」（教p.41「思考実験をやってみよう」） 「正しい嘘はあるか？～先人たちの教え～」(教p.42-43「現代社会の見方・考え方」) 〈指導上の留意点〉 ・この単元では、先哲の考え方の理解に基づき、公共的な空間における人間としての在 り方生き方について自分の意見を表現することを通じて、行為の結果である個人や社会 全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方 などについて理解させる。 ・先哲について網羅的に扱うのではなく、現実社会を踏まえた具体的な問いを設定し、 その解決策を考察させるよう留意する。						・選択・判断の手掛かりとして、 行為の結果である個人や社会 全体の幸福を重視する考え方 や、行為の動機となる公正な どの義務を重視する考え方な どについて理解している。 ・現代の諸課題について自ら も他者も共に納得できる解決 方法を見出すことに向け、思 考実験など概念的な枠組み を用いて考察する活動を通 して、人間としての在り方 生き方を多面的・多角的に 考察し、表現している。	・倫理的価値の判断において、 行為の結果である個人や社会 全体の幸福を重視する考え方 と、行為の動機となる公正な どの義務を重視する考え方な どを活用し、自らも他者も共 に納得できる解決方法を見 出すことに向け、思考実験 など概念的な枠組みを用い て考察する活動を通して、 人間としての在り方生き方 を多面的・多角的に考察し、 表現している。	・公共的な空間における人間 としての在り方生き方につ いて、現代社会に見られる 課題の解決を視野に、主体 的に社会に関わろうとして いる。

学 期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価標準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1 学期	5	10	p.32-33 1 よく生きる 古代 ギリシャの思想	よりよく生きるために 大切なことは何だろう か。	・p.40「『正義』の葛藤と 生命倫理」やp.41「『共 有地の悲劇』と環境問 題」の主題を活用し、思 考実験を通して社会的な 見方・考え方を習得でき るよう指導する。	・先哲の思想を現代社会で 生きる立場から考察する ために必要な知識を理解 し身に付けている。	・生きることに 関する資料を 収集し、よく 生きるこ とについて、 幸福と正義 の在り方から 思考し、そ の内容を意見 としてわか りやすく表 現している。	・公共的な空間にお ける人間としての 在り方生き方につ いて、現代社会に 見られる課題の解 決を視野に、主体 的に社会に関わろ うとしている。
1 学期	5	11	p.34-35 2 人とは何か 古代 中国の思想	人間とはどのような存 在だろうか。	・スポーツや日常生活など における具体的な事例を 取り上げ、他者との関わり 方について自ら考えら れるよう指導する。	・社会と人間に関わる古代 中国の思想についての知 識を理解し身に付けてい る。	・先哲の考え方を活用して 具体的な事例についての 判断を行い、自らの意見 や主張をわかりやすく表 現している。	
1 学期	5	12・ 13	p.36-37 3 動機と結果 近代 西洋の思想	よい行いのための判断 基準には、どのような ものがあるだろうか。	・p.42-43「正しい嘘はある か？～先人たちの教え～」 などの主題を活用し、義務 論と帰結主義、徳倫理学の 立場の考え方を体験的に学 習できるよう指導する。	・社会についてのさまざま な判断基準に関わる近代 西洋の思想についての知 識を身に付けている。	・先哲の考え方を活用して 具体的な事例についての 判断を行い、自らの意見 や主張をわかりやすく表 現している。	
1 学期	5	14	p.38-39 4 公平と正義 現代 の思想	公平な社会の実現のた めには、何が必要だろ うか。	・p.152-153「政府の役割 と財政の機能」やp.198- 199「経済格差の是正」 などの学習に活用できる ような概念を習得できる よう指導する。	・他者と共に生きること について考察するために必 要な現代思想の知識を理 解し身に付けている。	・他者と共に生きることや 公正と正義に関する資料 を収集し、思考・判断 し、その内容について自 らの意見や主張をわかり やすく表現している。	
第1部 第3章 第1節 社会の基本原則と憲法の考え方（9時間） 〈この節で働かせる見方・考え方〉 幸福、正義、公正、人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、 法の支配、自由・権利と責任・義務 など 〈主題（節の問い）〉 「多数決の課題と民主主義」（教p.66「思考実験をやってみよう」） 「『囚人のジレンマ』と協働」（教p.67「思考実験をやってみよう」） 「女性議員の枠を確保するのは『公正』？」（教p.68-69「現代社会の見方・考え方」） 〈指導上の留意点〉 ・この単元では、公共的な空間における基本原則としての日本国憲法の考え方の理解に 基づき、個人と社会の関係等について自分の意見を表現することを通じて、人間の尊 厳と平等、協働の利益と社会の安定等の大切さ、公共的な空間に生じる課題を探究す ることの大切さなどについて理解させる。 ・思考実験や概念操作といった抽象的な内容が多いため、現実社会を踏まえた具体的 な問いを設定するよう留意する。						・各人の意見や利害を公平・公正に調整すること などを通して、人間の尊 厳と平等、協働の利益と 社会の安定性の確保を共 に図ることが、公共的な 空間を作る上で必要であ ることについて理解して いる。 ・人間の尊厳と平等、個人 の尊重、民主主義、法の 支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な 空間における基本的原理 について日本国憲法を踏 まえて理解している。	・公共的な空間における基 本的原理について、思考 実験など概念的な枠組み を用いて考察する活動 を通して、自らの意見や主 張を個人と社会との関わり において多面的・多角 的に考察し、表現してい る。	公共的な空間にお ける基本的原理につ いて、日本国憲法を踏 まえて現代社会に見 られる課題の解決を 視野に、主体的に社 会に関わろうとして いる。
1 学期	6	15	p.44-45 1 近代立憲主義の原 理	近代立憲主義とはどの ような考え方だろうか。	・p.66「多数決の課題と民 主主義」などの主題につ いて、現実社会における 多数決の事例の資料など を活用して、合意形成の 際の配慮事項等について 関心を高めることができ るよう指導する。	・人間の尊厳と平等、個人 の尊重、民主主義、法の 支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な 空間における基本的原理 について日本国憲法を踏 まえて理解している。	・近代立憲主義の考え方を 用いて、国づくりにおけ る憲法制定の重要性など について判断し、自らの 意見や主張をわかりやす く表現している。	
1 学期	6	16	p.46-49 2 近代立憲主義の広 がり	近代立憲主義は、いつ から形成され、どのよ うに広がっていっただ ろうか。	・p.49「ナチス・ドイツの 悪夢～民主主義の限界～」 などの主題について、 図13「ナチ党の議席割 合の推移」などを活用し て、健全な民主主義と立 憲主義に向けた課題等につ いて関心を高めること ができるよう指導する。	・近代立憲主義のあゆみに 関する基本的な理解を踏 まえ、普通選挙の意義、 自由国家と福祉国家、全 体主義などに関する知識 を身に付けている。	・近代立憲主義と民主主義、 君主制と共和制など に関する基本的な考え方 を用いて、安定した政治 体制の在り方などにつ いて判断し、自らの意見 や主張をわかりやすく表 現している。	
1 学期	6	17	p.50-51 3 日本国憲法	日本国憲法には、どの ような特徴があるだろ うか。	・導入「見直された天皇の地 位」などの主題について、 図4「大日本帝国憲法と日 本国憲法」などを活用して、 国民主権と天皇の地位の関 係について関心を高めるこ とができるよう指導する。	・敗戦から、GHQと日本政 府による大日本帝国憲法 の見直しに至る経緯につ いての基本的な理解を踏 まえ、日本国憲法の基本 原則に関する知識を身に 付けている。	・最高法規としての憲法の 位置付けに関する基本的 な考え方を用いて、憲法 改正手続きの妥当性など について判断し、自らの 意見や主張をわかりやす く表現している。	

学 期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価標準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1 学期	6	18	p.52-53 4 平等に生きる権利	平等権の保障のために どのような取り組みが なされているだろうか。	・p.68-69「女性議員の枠を 確保するのは「公正」？」な どの主題について、形式的 平等と実質的平等の違いに 関する資料などを活用し て、「平等」や「公正」に 対する考え方を深めること ができるよう指導する。	・平等権と差別に関する基 本的な理解を踏まえ、差 別の現実と差別解消に向 けた取り組みに関する知 識を身に付けている。	・平等権に関する基本的な 考え方にに基づき、現実社 会の差別事例と差別解消 の重要性などについて判 断し、自らの意見や主張 をわかりやすく表現して いる。	・公共的な空間にお ける基本的原理に ついて、日本国憲 法を踏まえて現代 社会に見られる課 題の解決を視野 に、主体的に社会 に関わろうとして いる。
1 学期	6	19	p.54-55 5 自由に生きる権利 ①	精神的自由とはどのよ うな自由だろうか。	・p.64-65「これSNSに投 稿していい？」などの主 題について、肖像権、名 誉権、知的財産権に関す る資料などを活用して、 生活と人権の関わりにつ いて関心を高めることが できるよう指導する。	・精神的自由の重要性に関 する基本的な理解を踏ま え、個々の権利の内容に 関する知識を身に付けて いる。	・精神的自由に関する基本 的な考え方をを用いて、主 な訴訟や判例の妥当性な どについて判断し、自ら の意見や主張をわかりや すく表現している。	
1 学期	6	20	p.56-57 6 自由に生きる権利 ②	身体的自由や経済的自 由として、どのよう なことが保障されてい るだろうか。	・導入「無実の罪で失われ た18年」などの主題につ いて、冤罪被害に関する 他の事例などにおける人権 保障の重要性に気付くこ とができるよう指導する。	・身体的自由の重要性、お よび経済的自由の重要性 とその制約に関する基本 的な理解を踏まえ、個々 の権利の内容に関する知 識を身に付けている。	・身体的自由、経済的自由 に関する基本的な考え方 を用いて、主な訴訟や判 例の妥当性などについて 判断し、自らの意見や主 張をわかりやすく表現し ている。	
1 学期	6	21	p.58-59 7 人間らしく生きる 権利	公平な社会の実現のた めには、何が必要だろ うか。	・導入「公務員の争議行為、 認めるべき？」などの学習 について、図5「公務員の 労働三権」などを活用し て、権利と義務の関係など について関心を高めること ができるよう指導する。	・社会権、国務請求権、参 政権、国民の義務などに 関する基本的な考え方 の理解を踏まえ、個々の権 利と義務の内容に関する 知識を身に付けている。	・社会権、国務請求権、参 政権に関する基本的な考 え方を用いて、権利保障 をどこまで求めるべきか などについて判断し、自 らの意見や主張をわかり やすく表現している。	
1 学期	6	22	p.60-61 8 広がる人権の考え 方	新しい人権の保障が必 要になってきているの はなぜなのだろうか。	・p.67「『囚人のジレンマ』 と協働」などの主題につ いて、現実社会の軍縮や 温暖化対策の事例などを 活用して、協働の困難さ と重要性に気付くことが できるよう指導する。	・社会の変化と人権意識の 高まりに関する基本的な 理解を踏まえ、個々の新 しい人権に関する知識を 身に付けている。	・新しい人権に関する基本 的な考え方をを用いて、人 権保障と公共の福祉の関 係などについて判断し、 自らの意見や主張をわか りやすく表現している。	
1 学期	6	23	p.58-59 9 人権保障の国際的 な広がり	国際的な人権保障はど のように広がってきて いるだろうか。	・導入「国籍を持たない人々 の人権保障」などの主題 について、図6「主な国 の難民認定者数」などを 活用して、難民の保護等 について関心を高めるこ とができるよう指導する。	・人権の国際化の流れに関 する基本的な理解を踏ま え、世界の人権問題に関 する知識を身に付けてい る。	・国際的な人権問題の解決 に向けた基本的な考え方 を踏まえて、国際社会か ら見た日本の人権問題な どについて判断し、自ら の意見や主張をわかりや すく表現している。	
第2部 第1章 第1節 法の意義と司法参加（7時間） 〈この節で取り扱う現実社会の事柄や課題〉 ①法や規範の意義および役割 ②多様な契約および消費者の権利と責任 ③司法参加の意義 など 〈主題（節の問い）〉 「同性婚は法的に認められるべきか？」（教p.77「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の①に対応 「入学を辞退したら、入学金や授業料は返還されるか？」（教p.83「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の②に対応 「死刑制度は続けるべきか？」（教p.90-91「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の③に対応 〈指導上の留意点〉 ・この単元では、法の基本的な考え方に関する正確な理解に基づき、身近な主題につい てさまざまな考え方を踏まえて判断し、自らの意見や主張を表現することを通じて、 法の意義や司法参加について関心を高めさせる。 ・法や社会規範の役割、法の役割の限界、私法に関する基本的な考え方、裁判員制度な どを取り扱うが、理念や制度は抽象的な内容になりがちなので、生徒が考えやすい具 体的な問いを設定するよう留意する。						・法や規範の意義および役 割、多様な契約および消費 者の権利と責任、司法参加 の意義などに関わる現実社 会の事柄や課題を基に、憲 法の下、適正な手続きに則 り、法や規範に基づいて各 人の意見や利害を公平・公 正に調整し、個人や社会の 紛争を調停、解決すること などを通して、権利や自由 が保障、実現され、社会の 秩序が形成、維持されてい くことを理解している。 ・社会の諸課題に関わる諸資 料から、自立した法的主体 として活動するために必要 な情報を適切かつ効果的に 収集し、読み取り、まとめ る技能を身に付けている。	・自立した法的主体として 解決が求められる具体的 な主題について、合意形 成や社会参画を視野に入 れながら、その主題の解 決に向けて事実を基に協 働して考察したり構想し たりしたことを、論拠を もって表現している。	・公共的な空間にお ける基本的原理に ついて、日本国憲 法を踏まえて現代 社会に見られる課 題の解決を視野 に、主体的に社会 に関わろうとして いる。

学 期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価標準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1 学期	7	24	p.72-73 1 社会規範と法	社会規範とはどのよう なものだろうか。	・p.77「同性婚は法的に認 められるべきか？」など の主題を活用し、法の役 割や限界についても関心 を高めることができるよ う指導する。	・社会規範における法の特 色に関する基本的な理解 を踏まえ、法の種類や法 の秩序に関する資料を活 用して、社会における法 の役割や機能に関する知 識を身に付けている。	・法に基づき社会を形成す るという基本的な考え方 を用いて、成年年齢の在 り方などについて判断 し、自らの意見や主張を わかりやすく表現してい る。	・法や規範の意義お よび役割、多様な 契約および消費者 の権利と責任、司 法参加の意義など に関わる課題の解 決を視野に、主体 的に社会に関わろ うとしている。
1 学期	7	25	p.74-75 2 私たちの生活と法	法律は、私たちの生活 においてどのような役割 を果たしているだろ うか。	・p.76「交通事故を起こし たら？」などの主題を活 用し、法の紛争解決機能 について理解を深めるこ とができるよう指導する。	・日常生活と法に関する基本 的な理解を踏まえ、図2 「私たちの一生と法律」や COLUMN「法律を作っ てみよう」を活用して、身の 回りの法の役割に関する知 識を身に付けている。	・法は単に義務や罰を課す ものではないという基本 的な考え方に基づいて、 日常におけるあるべき法 の在り方について判断し、 自らの意見や主張をわか りやすく表現している。	
1 学期	7	26	p.78-79 3 契約の考え方	契約自由の原則に、い くつもの例外があるの はなぜだろうか。	・p.82「契約で気をつける ことは？」などの主題を活 用し、契約自由の原則と例 外など私法に関する基本的 な考え方を身に付けること ができるよう指導する。	・所有権や契約に関する基 本的な理解を踏まえ、契 約の成立や解除などの資 料を活用して、法的な権 利と責任に関する知識を 身に付けている。	・契約の原則と例外に関する 基本的な考え方をを用いて、 契約をめぐるトラブル事例 などについて判断し、自ら の意見や主張をわかりやす く表現している。	
1 学期	7	27・ 28	p.80-81 4 消費者の権利と責 任	消費者問題が起こるの はなぜだろうか。	・p.83「入学を辞退したら、 入学金や授業料は返還され るか？」などの主題を活用 し、消費者契約の重要性に ついて関心を高めることが できるよう指導する。	・消費者問題に関する基本的 な理解を踏まえ、過去の問 題事例とその対処法などの 資料を活用して、消費者の 権利と責任に関する知識を 身に付けている。	・消費者問題の背景にある情 報の非対称性などの基本的 な考え方をを用いてあるべき 消費活動の姿について判断 し、自らの意見や主張をわ かりやすく表現している。	
1 学期	7	29	p.84-85 5 司法の役割	司法はどのような役割 を担っているだろうか。	・p.90-91「死刑制度は続け るべきか？」などの主題を 活用し、重大な判断を下す ための三審制や司法権の独 立の意義について深く理解 できるよう指導する。	・司法権の位置付けや三審制 に関する基本的な理解を踏 まえ、裁判の流れや傍聴手 続の実際に関する資料を活 用して、司法に関する知識 を身に付けている。	・司法権の独立などの基本 的な考え方をを用いて、違 憲審査の在り方について 判断し、自らの意見や主 張をわかりやすく表現し ている。	
1 学期	7	30	p.86-87 6 刑事裁判とその課 題	日本の司法制度には、 どのような課題がある だろうか。	・p.88「逮捕されるとどう なる？」やp.89「裁判員 になったら？」などの主 題を活用し、刑事手続と 人権保障や国民の司法参 加の在り方について考察 できるよう指導する。	・刑事裁判に関する基本的な 理解を踏まえ、導入「開か れた司法の実現に向けて」 や図4「裁判にかかった時 間」などを活用して、刑事 裁判の課題などに関する知 識を身に付けている。	・推定無罪の原則などの考 え方を用いて、刑事手続 の問題点と解決策を判断 し、自らの意見や主張を わかりやすく表現してい る。	
第2部 第2章 第1節 民主社会と政治参加（7時間） 〈この節で取り扱う現実社会の事柄や課題〉 ④政治参加と公正な世論の形成、地方自治 など 〈主題（節の問い）〉 「政権には、どのような政党の組み合わせが望ましいか？」（教p.77「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の④に対応 〈指導上の留意点〉 ・この単元では、さまざまな意見や利害を調整するという政治の意義や統治機構のしく みの正確な理解に基づき、よりよい社会を構成するための取り組みについて、自分の 意見を表現することを通じて、政治参加と公正な世論の形成、地方自治等について理 解させる。 ・学術的な視点や思索的な視点、あるいは現在のしくみの矛盾点を見出す視点などか ら、考察する主題を見つけ出し、具体的な問いを設定し、その解決策を考察・構想で きるよう支援するよう留意する。						・政治参加と公正な世論の形 成、地方自治などに関わる 現実社会の事柄や課題を基 に、よりよい社会は、憲法 の下、個人が議論に参加し、 意見や利害の対立状況を調 整して合意を形成すること などを通して築かれていく ものであることについて理 解している。 ・社会の諸課題に関わる諸資 料から、自立した政治的主 体として活動するために必 要な情報を適切かつ効果的 に収集し、読み取り、まと める技能を身に付けている。	・自立した政治主体として 解決が求められる具体的 な主題について、合意形 成や社会参画を視野に入 れながら、その主題の解 決に向けて事実を基に協 働して考察したり構想し たりしたことを、論拠を もって表現している。	・政治参加と公正な 世論の形成、地方 自治などに関わる 課題の解決を視野 に、主体的に社会 に関わろうとして いる。
2 学期	9	31	p.92-93 1 政治と権力	政治の権力は、何のた め、誰のためにあるだ ろうか。	・COLUMN「緊急事態条項 について考える」などを活 用して、緊急事態条項等、 政治の世界においても絶対 的な正義は存在しないこと に気付かせながら、政治権 力がどのように使われるこ とが最善であるかについて 考察できるよう指導する。	・政治の定義を踏まえ、法 の支配の原理を活用し て、代表民主制と国民主 権の考えを背景に考察す るための知識を理解し身 に付けている。	・代表民主制の考えに基づ き、政治的無関心につい て考察、判断し、政治へ の参加や監視についての 自らの意見や主張をわか りやすく表現している。	

学 期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価標準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
2 学期	9	32	p.94-96 2 議院内閣制と国会	国会にはどのような役割と課題があるだろうか。	・図2「議院内閣制のしくみ」やp.112-113「政権には、どのような政党の組み合わせが望ましいか？」などを活用して、議院内閣制のしくみを、国民（主権者）、国会、内閣、それぞれの視点から、その特徴について気付かせるとともに、国会における審議・議決のしくみの良い点や改善すべき点（問題点）などについて気付くことができるよう指導する。	・議院内閣制の考え方の上に立って日本の国会のしくみ、法律の制定、二院制の特徴を三権の関係の中で考察するための知識を理解し身に付けている。また、憲法の下での君主制の考えを踏まえ、天皇制や諸外国の王室制度について理解している。	・国会のルールに基づいて国会の課題とその対応について理解し、改善すべき点や課題として捉えるべき内容について、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	・公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
			p.97-99 3 権力分立と行政の役割	行政（内閣）には、どのような役割と課題があるだろうか。	・p.94図4「議院内閣制のしくみ」や図3「アメリカの政治体制」などを活用して、行政権の行使のしくみについてさまざまな対応があることに気づき、民主主義を適切に成立させるしくみについて考えることの大切さを意識できるよう指導する。	・権力分立の考え方を踏まえ、行政のしくみと活動についての知識を理解し身に付けている。また、行政の課題について改善点を考察するための知識を理解し身に付けている。	・行政のしくみや活動を通して、しくみが機能していることへの評価や問題点等、行政の活動について判断し、行政の課題について、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
			p.100-101 4 地方自治の役割	地方自治にはどのような役割と課題があるだろうか。	・図4「地方自治のしくみ」などを活用して、地方自治における住民の政治参加について、その特徴やしくみ、国政との違いに気付くよう指導する。また、p.6やp.202の高校生の活動事例も、地方自治への社会参画の例として活用したい。	・地方自治の本旨の理解の上に立って団体自治と住民自治の定義を活用し、住民の政治参加の在り方を通して地方自治の課題を指摘し、対策を考察するために必要な知識を身に付けている。	・地方自治のしくみを地方自治体の歳入の資料を用いて、国政との違い、地方公共団体が取り組むべき業務について、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
2 学期	9	34	p.102-103 5 政党政治とメディア	代表民主制では、政党はどのような役割を果たしているだろうか。	・p.112-113「政権には、どのような政党の組み合わせが望ましいか？」の主題を活用して、代表民主制において政党の主張する政策が国民にとっては選択肢の一つに過ぎないことを理解し、多様な主張の中から適切な政策の立案につながる考えを選択するために、社会のしくみと判断力が必要となることを指導する。	・政党の目的と役割を踏まえて、政党政治の課題について理解している。また、政党の活動と世論やメディアとの関わりを関連させて考察するために必要な知識を身に付けている。	・代表民主制における政党の役割をもとに、世論の形成に政党やメディアが果たす役割について考察し、多様な情報をどのように受け止めて適切に判断したらよいか、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
			p.106-107 6 選挙制度とその課題	日本の選挙制度には、どのような課題があるだろうか。	・参政権を保障するにあたり、現実社会の状況に基づいた現実的なしくみを考えさせるとともに、民意の反映方法にはさまざまな方法や立場によって選択する考え方の種類があることに気付くよう指導する。 ・実践的な投票までの流れや判断方法については、p.108-109「初めての選挙 誰に投票する？」を活用する。	・国民の政治参加にはさまざまな手段があることを理解した上で、政治参加の権利（参政権）と日本の選挙制度のしくみについて、特徴と課題を指摘するために必要な知識を身に付けている。	・参政権を行使する適切な方法について思考し、現行制度の理解の上に立って、その制度の課題を指摘し民意を反映するためのしくみや制度について、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	

学 期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価規準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
第2部 第2章 第2節 国際政治の動向と平和の追求（8時間）						・国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意形成することなどを通し築かれるものであることについて理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した政治主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	・自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
〈この節で取り扱う現実社会の事柄や課題〉 ⑤国家主権、領土（領海、領空を含む。） ⑥我が国の安全保障と防衛 ⑦国際貢献を含む国際社会における我が国の役割 など 〈主題（節の問い）〉 「内戦状態の国に国際社会は介入すべきか？」（教p.132-133「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の⑤⑥に対応 「SDGsのどの目標を優先して協力・支援すべきか？」（教p.134-135「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の⑦に対応 〈指導上の留意点〉 ・この単元では、国家主権や国際法によって成立する国際社会の正確な理解に基づき、我が国の固有の領土に残る問題の平和的な解決や安全保障、国際連合における国際貢献について、自らの意見や主張を表現することを通じて、国家主権、領土、我が国の安全保障と防衛、国際社会における我が国の役割などについて理解させる。 ・国際情勢の変化を踏まえたり、持続可能な開発目標（SDGs）を用いたりして、具体的な問いを設定し、その解決策を考察・構想できるよう支援することを留意する。								
2 学期	9	38	p.114-115 1 国家と国際法	国際社会において、国家の役割とはどのようなものだろうか。	・国際社会における主権国家の主張は、その国家における正義を表しており、一概に支持されたり否定されたりするものではないことを理解した上で、日本も国際社会と協調しながら国益の確保に取り組んでいることを考察できるよう指導する。 ・p.132-133「内戦状態の国に国際社会が介入すべきか？」の主題などを活用し、国家がもつ主権について多面的・多角的に考察できるよう指導する。			
2 学期	10	39	p.116-117 2 日本の主権と領土	現代の日本では、領土をめぐるどのような動きがあるだろうか。	・日本固有の領土を実効支配したり、領有権を主張したりしている国家に対し、領有権の考えと日本の「固有の領土」であることの理解を、日本は平和と安全が確立されている状況において求め続けることができるよう指導する。	・近代の国際法における領有権の定義を理解するとともに、日本の領土に関わる歴史的経緯により、日本の固有領土について正しく理解し、生じている諸課題を解決する意志を持つことができている。	・日本の領土を実効支配している諸外国に対し、国際法に違反することなく、日本の主張の理解を求め、本来の領土の状況に戻すことがいかに重要で取り組まなければならないかという意見をわかりやすく表現している。	
2 学期	10	40	p.118-119 3 平和主義と日本の防衛政策	日本の平和主義は、どのような特徴があるだろうか。	・平和主義の考え方を、言葉の上での解釈のみに終始することなく、国際社会の情勢の変化の中で、普遍的かつ実効性があるかどうかという視点から考察できるよう指導する。	・平和主義が誕生した歴史的背景と、日本国憲法に定められている平和主義の理解の上に立って、第二次世界大戦後の日本の防衛政策についての考察に必要な知識を身に付けている。	・平和主義を実現するためのさまざまな取り組みを憲法の平和主義に照らし合わせて考え、安全で平和な状態を維持拡大する立場から、今後取り組むべき事柄について、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
2 学期	10	41	p.114-115 4 平和主義と日本の安全保障	日本の平和と安全はどのように守っていけばよいだろうか。	・図3「個別的自衛権と集団的自衛権」などを活用して、日本の国益を守るための集団的自衛権と国際社会の安全と平和を実現するための国際貢献に関わる活動など、それぞれの活動の目的や意義が異なる点に気づき、今後の安全保障の適正な在り方について考察できるよう指導する。	・現在の日本の安全と平和を構築している国際社会の枠組みや取り決めの理解の上に立って、国際社会の中で日本が実現しようとしている外交に関わる動向について考察するために必要な知識を身に付けている。	・日本の安全保障について、国際社会における日本の政治や経済のつながりの理解の上に立って、国際協調主義のもと、日本のとるべき政策について考え、とるべき手段について判断し、その効果についてわかりやすく表現している。	

学 期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価規準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
2 学 期	10	42	p.122-123 5 国際連合の役割と活動	国連はどのような目的で活動しているだろうか。	・国益を越えた人類益の実現を図る取り組みの存在に気付かせるとともに、その取り組みを行うのは国益の実現を確保する主権国家である点に気付かせながら国際社会の課題解決のための必要な手立てを考察させる。	・国際連合の目的について、組織が発足した歴史的な背景、組織が有効に機能している点や改善を進める必要がある点などを指摘し、今後取り組みを進めるべき事柄を考察するために必要な知識を身に付けている。	・国際連合の成立から今日に至るまでの組織の拡大に伴う組織の変遷や活動内容の変化の理由について考え、解決すべき課題の優先順位を判断し、具体的な対応への自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	・国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
			p.124-125 6 紛争とテロリズム	なぜ世界各地で紛争やテロが起こっているのだろうか。	・p.130-131「戦後の国際政治の変遷」を活用して国際政治の変遷を踏まえながら、政治的な手法で解決を図る可能性がある紛争や対立等への向き合い方を考察するとともに、テロリズムについては手段そのものを認めてはならないことを確実に理解できるよう指導する。	・紛争やテロが生じる原因について、事態は単純に解決することができない複雑な様相を呈していることを理解した上で、紛争の解決に取り組む姿勢とテロを否定することが表明できるための知識を身に付けている。	・対立する勢力の争いを收拾し、その後の共存を図るためのしくみを成立させるための施策について考察することを通して、国際紛争の当事者とその背景にある勢力の情勢について説明している。	
2 学 期	10	44	p.126-127 7 核兵器と軍縮の課題	世界の軍縮にはどのような課題があるだろうか。	・核兵器をはじめとする大量破壊兵器を所有する国家等がある現状に立ち、兵器の開発や製造の阻止、使用の制限や禁止の実現の障害となる国際社会の状況を理解させ、取り組むべき課題を考察できるよう指導する。 ・p.67「『囚人のジレンマ』と協働」を活用し軍縮が困難な理由に思考実験を通して気付き、解決策を考察・構想できるよう指導する。	・核兵器をはじめとする兵器の開発、保有、廃棄、抑止など、その扱いに関わる考え方の理解の上に立って、自国が軍事的に優位に立つ政策が主張される国際社会における軍縮の必要性について考察するための知識を身に付けている。	・核兵器、生物兵器、化学兵器並びに地雷等の兵器を所有する考え方と禁止や削減を主導している考え方を比較、整理し、平和を確保するための取り組みについて、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
			p.128-129 8 国際協力と日本の役割	国際社会の中で日本はどのような役割を果たすべきだろうか。	・p.134-135「SDGsのどの目標を優先して協力・支援すべきか？」の主題などを活用し、国際協力に掲げた目標を実現するために必要な国家の政策や民間組織の施策、予算、人手、受け入れ国の理解と協力等、整える必要のある事柄について気付き、現実的かつ具体的に考察できるよう指導する。	・国際社会において実施されている国際連合等による取り組みや日本政府の取り組みについて理解するとともに、今後、解決しなければならない課題が存在していることについて考察するための知識を身に付けている。	・国際協力が行われてきた政策の目標と達成度について理解するとともに、それぞれの政策の成果と課題について考察し、今後の国際協力の在り方について、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
2 学 期	11	45						
第2部 第3章 第1節 市場経済のしくみ（8時間）						・市場経済の機能と限界、金融の働き、財政および租税の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることおよびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることを理解している。 ・社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した経済主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	・自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・市場経済の機能と限界、金融の働き、財政および租税の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
〈この節で取り扱う現実社会の事柄や課題〉 ⑧市場経済の機能と限界 ⑨金融の働き ⑩財政および租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 など 〈主題（節の問い）〉 「図書館の運営を民間に任せるべきか？」（教p.164「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の⑧に対応 「キャッシュレス社会に向けての課題は？」（教p.165「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の⑨に対応 「消費税率を引き上げるべきか？」（教p.166-167「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の⑩に対応 〈指導上の留意点〉 ・この単元では、希少な資源を効率的に配分する市場メカニズムに対する正確な理解に基づき、公正かつ自由な経済活動が行われる社会を構成するための取り組みについて自分の意見を表現することを通じて、市場経済の機能と限界、金融の動き、財政および租税の役割について理解させる。 ・その際、大きく変容する金融の働きや厳しい財政状況など現実社会を踏まえた具体的な問いを設定し、その解決策を考察・構想できるよう支援することを留意する。								

学 期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価標準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
2 学 期	11	46	p.136-137 1 経済とその考え方	経済とは、どのような活動だろうか。	・資源の希少性については必ず触れるようにする。図3「家計」図4「経済の三つの主体とその循環」を活用して、経済社会の循環について理解を深めるように指導する。	・市場機構や分業の考え方にに基づき、経済の三つの主体とその循環などの資料を活用して、市場経済の考え方、限りある資源を最適に配分するしくみ、経済循環に関する知識を身に付けている。	・市場経済の考え方をを用いて、市場機構や分業のあり方を理解し、その内容をわかりやすく表現することができる。	・市場経済の機能と限界、金融の働き、財政および租税の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
			p.138-140 2 市場のメリットと限界	市場メカニズムが機能しないのは、どのような場合だろうか。	・図4「需要と供給の均衡」図5「需要と供給の変化」を活用して市場メカニズムについて理解を深めるよう指導する。その際には「市場の失敗」についても具体例を用いて触れるよう指導する。また、p.141「大きな政府と小さな政府」を活用し、歴史的な流れからも確認できるようにする。	・市場経済に関する基本的な理解に基づき、市場経済の特徴である需要と供給の関係の資料を活用して、市場経済の機能とその限界に関する知識を身に付けている。	・市場経済は公正で自由な競争を促進しているという考え方をを用いて、その役割と限界について、自らの意見をわかりやすく表現している。	
2 学 期	11	48	p.142-143 3 企業の目的と役割	企業はどのような目的で活動し、どのような役割を担っているだろうか。	・図4「株式会社のしくみの例」を活用したり、p.144-145「企業の活動と資金調達」を参照したりすることで、株式会社のしくみとその役割について理解できるよう指導する。なお、企業の社会的責任については、具体的にどのような例があるかを考え、示すようにする。	・企業活動と株式会社に関する基本的な理解に基づき、企業、株式会社、企業の責任に関する資料を活用して、株式会社のしくみと役割、社会的責任に関する知識を身に付けている。	・企業についての知識を用いて、企業のしくみ、活動について説明することができる。また、企業活動の目的や責任について公正の考え方から思考し、その内容について自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
			p.146-147 4 金融の役割	経済活動に金融が必要なのは、なぜだろうか。	・図5「金融における家計・企業・政府の関係」を活用して、金融の役割について理解を深めるように指導する。その際は、金融の自由化、グローバル化について必ず触れるようにする。なお、p.148-149「社会全体のお金の量はどのくらいか？」とp.150-151「人生設計必要なお金は？」を適宜参照させる。	・金融と日本銀行に関する基本的な理解に基づき、金融の役割、日本銀行の役割に関する資料を活用して、必要な知識を身に付けている。	・金融や日本銀行の役割についての知識を用いて、金融の役割や金融政策、日本銀行の役割についてわかりやすく表現できている。	
2 学 期	12	50	p.152-153 5 政府の役割と財政の機能	市場経済において、政府の役割と財政の機能は、どのようなものだろうか。	・3つの財政の機能（資源配分機能、所得再分配機能、景気の安定化機能）について、しっかりと理解できるよう指導する。また、図5「財政政策と景気の自動安定化装置」を活用して、財政と景気の関係について理解できるよう指導する。	・市場における政府の役割に関する基本的な理解に基づき、財政の機能、財政政策のしくみと経済に与える影響について、必要な知識を理解し身に付けている。	・政府の役割と財政の機能、財政政策の基本的な考え方をを用いて、財政の機能や現在の財政政策についてわかりやすく表現できている。また、景気の自動安定装置（ビルトイン・スタビライザー）について説明できている。	
			p.154-155 6 日本の財政の課題	日本の財政の課題には、どのように向き合っていけばよいだろうか。	・図3「日本の公債残高の推移」やp.166-167「消費税率を引き上げるべきか？」の主題などを活用して、財政の課題と税の在り方について考察できるよう指導する。また、税金の使い方については納税者の立場から考えさせることに留意する。	・財政や税制に関する基本的な理解に基づき、財政の歳入と歳出、租税の種類のグラフを活用して、財政、税制のしくみを理解し知識を身に付けている。	・財政や税制の基本的な考え方をを用いて、財政、税制の現状について判断し、その課題について自分の意見や主張をわかりやすく表現している。	

学 期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価標準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
2 学期	12	52 ・ 53	p.156-157 7 経済の変動	経済はどのように、成長していくだろうか。	・図4「消費者物価指数の推移」とp.159図8「日本の名目GDPの推移」を活用して、物価と景気の関係について理解できるよう指導する。その際に、デフレスパイラルなどの現代的課題に留意する。なお、GDPの具体的な理解については、p.158-159「GDPの見方・考え方・使い方」を活用するよう促す。	・GDP（国内総生産）と国富に関する基本的な理解に基づき、経済を測る指標の資料を活用して、景気変動と変動から生じる現象について必要な知識を身に付けている。	・持続的な経済成長の要因や、景気変動と変動から生じる現象について考察し、その内容や影響について自分の意見をわかりやすく表現している。	・市場経済の機能と限界、金融の働き、財政及び租税の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
			第2部 第3章 第2節 豊かな社会の実現（7時間） 〈この節で取り扱う現実社会の事柄や課題〉 ⑩財政および租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 ⑪職業選択 ⑫雇用と労働問題 など 〈主題（節の問い）〉 「これからの社会、働くならどのような形態か？」（教p.182-183「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の⑩⑫に対応 「どのような公的年金制度が望ましいか？」（教p.184-185「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の⑩に対応 〈指導上の留意点〉 ・この単元では、変化する産業構造と労働の在り方、社会保障の意義と課題に対する正確な理解に基づき、国民福祉の向上に向けた取り組みについて自分の意見を表現することを通じて、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の役割といった諸課題について理解させる。 ・進行する少子高齢化や技術革新の急速は発展などの社会変化を踏まえた具体的な問いを設定し、その解決策を考察・構想できるよう支援することを留意する。			・職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることおよびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることの必要性を理解している。 ・社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した経済主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	・自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
3 学期	1	54	p.168-169 1 産業構造の変化と職業選択	産業構造が変化する要因は、何だろうか。	・導入「AI（人工知能）の進化で職業選択は変わるか？」を活用してAIの進化について考察できるよう、また図6「産業別労働人口の割合の推移」を活用して産業構造の変化について理解を深めることができるよう指導する。	・技術革新により産業構造が変化していくという基本的な理解に基づき、グローバル化やAIが進化していることから職業選択の幅を広げていく必要が生じていることを理解するために必要な知識を身に付けている。	・産業構造の変化についての知識を用いて、現在の産業構造の高度化について説明することができる。また、グローバル化やAIが職業選択に変化を及ぼしていることについて自分の意見や主張をわかりやすく表現している。	
			p.170-171 2 中小企業と農業	中小企業や農業には、どのような強みと弱みがあるだろうか。	・図3「大企業と中小企業」、図4「農業就業人口の割合とGDPに占める農業総生産の割合の推移」を活用して、現状を把握できるよう指導する。また、導入「高いシェアを占める中小企業」などを活用して、中小企業の強みについて考察できるよう指導する。	・日本の中小企業や農業に関する基本的な理解に基づき、中小企業や農業の現状、課題について理解し、必要な知識を身に付けている。	・中小企業や農業の基本的な知識を用いて、現状や課題について、説明することができる。また、中小企業や農業の強みと弱みについて自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
3 学期	1	56	p.172-173 3 労働者の権利	労働者の権利が保障されるのは、なぜだろうか。	・導入「アルバイトと労働基準法」やp.176-177「求人票を見てみよう」を活用して、労働者にはどのような権利が保障されているか、またなぜ保障されているかを具体的に考えさせる。またCOLUMN「男性にも育児休業を」、図6「女性の年代別労働力率」を活用して、現代の労働環境について考察するよう指導する。	・労働者の権利および制度に関する基本的な理解に基づき、労働者の権利（労働三権、各種労働法等）や女性と労働をめぐる問題について考察するために必要な知識を身に付けている。	・労働者と企業の関係についての理解に基づき、労働契約の考え方について説明することができる。また、労働契約、労働者の権利や制度についての知識を用いて、自らの意見や主張を分かりやすく表現している。	

学 期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価標準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
3 学期	1	57	p.174-175 4 雇用と労働に関する課題	人口減少社会のなかで、どのような雇用対策が求められるだろうか。	・p.168-169「産業構造の変化と職業選択」、p.182-183「これからの社会、働くならどのような形態か？」の主題を活用して、産業構造の変化、労働環境の変化を踏まえて、自らの働き方について、具体的なイメージを持って、考察することができるよう指導する。	・現代の労働環境に関する基本的な理解に基づき、労働者の雇用や環境などの問題や課題について理解し、必要な知識を身に付けている。	・労働環境に関する知識を用いて、労働環境をめぐる課題を説明することができる。人口減少社会において働きやすい労働環境、外国人労働者の受け入れなどの雇用や労働環境の変化について自分の意見や主張をわかりやすく表現している。	・市場経済の機能と限界、金融の働き、財政および租税の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
			p.178-179 5 社会保障の役割と意義	多くの国で政府が社会保障制度を主導しているのは、なぜだろうか。	・図2「世界の社会保障制度の歴史」、図3「日本社会保障制度の歴史」を活用して、社会保障制度の歴史と役割について深く理解できるようにする。図4「日本の社会保障制度」を活用し、社会保障制度の種類を分類できるよう指導する。	・社会保障制度に関する基本的な理解に基づいて、社会保障の歴史、役割、我が国の社会保障制度のしくみを理解し、必要な知識を身に付けている。	・社会保障制度に関する知識を用いて、市場経済における社会保障制度の役割とその内容を説明することができる。	
3 学期	1	59 ・ 60	p.180-181 6 社会保障制度の課題	日本の社会保障制度を持続可能なものにしていくためには、何が必要だろうか。	・p.8-9「私たちの生きる現代社会」、図2「歳出における社会保障関係費の推移」、図3「国民負担率の国際比較」を参考にして、少子高齢化における財政面での負担について課題意識を高めるよう指導する。また、p.184-185「どのような年金制度が望ましいか？」の主題を活用して、持続可能な公的年金制度を具体的に考察・構想できるよう指導する。	・少子高齢化と社会保障制度の基本的な理解に基づいて、持続可能な社会保障制度と福祉社会の在り方を考察するために必要な知識を身に付けている。	・社会保障制度に関する知識を用いて、少子高齢化が進むなか、社会保障制度の課題、持続可能な社会保障制度に向けての改善点について、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
			第2部 第3章 第3節 国際経済の動向と格差の是正（6時間） 〈この節で取り扱う現実社会の事柄や課題〉 ⑬経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。） など 〈主題（節の問い）〉 「国内工場の海外移転にどう対応するか？」（教p.200-201「現代社会の諸課題」） →“事柄や課題”の⑬に対応 〈指導上の留意点〉 ・この単元では、グローバル化の進展により経済活動が世界的な規模で行われていることに対する正確な理解に基づき、貧困や格差のないよりよい国際社会の形成に向けた取り組みについて自分の意見を表現することを通じて、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり、国際社会における貧困や格差の問題などについて理解させる。 ・国際経済と日本との関わりや、文化・宗教の多様性とグローバル化の関係なども踏まえた具体的な問いを設定し、その解決策を考察・構想できるよう支援することを留意する。			・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることおよびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることを理解している。 ・社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した経済主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	・自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
3 学期	2	61	p.186-187 1 国際経済のしくみ	国家間で貿易が行われているのは、なぜだろうか。	・貿易による分業の利益については、図2「比較生産費説」を参考にする。国際収支と為替変動の具体的な影響と要因についての理解は、p188-189「国際収支と為替変動の見方」を活用する。	・国際経済に関する基本的な理解に基づいて、国際分業の意味、自由貿易の必要性、外国為替相場、国際収支に関する必要な知識を身に付けている。	・比較生産費説、外国為替相場、国際収支についてその内容を説明できている。また、これらの理解を踏まえて、自由貿易の推進について、自らの意見や主張を、わかりやすく表現できている。	

学期	月	時 限	教科書ページ 学習項目	学習課題 (見開きの問い)	指導上の留意点・ 活用資料	評価規準の具体例		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
3 学期	2	62	p.190-191 2 国際経済の枠組み	国際経済にはどのような機関やルールがあるだろうか。	・図3「戦後の国際経済体制と円相場の変化」や導入「戦後の日本の復興と世界銀行の支援」などを活用して、具体的な題材を扱うようにする。	・戦後の国際経済の動向に関する基本的な理解に基づいて、為替相場の安定や自由貿易推進のための国際機関とその制度やルールに関する必要な知識を身に付けている。	・国際機関の知識を用いて、為替相場の安定や自由貿易推進のための制度やルールについて説明できる。また、これらの制度やルールの課題について、自分の考えや意見をわかりやすく表現している。	・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
3 学期	2	63	p.192-193 3 地域経済統合	地域経済統合にはどのような特徴があるだろうか。	・図3「世界の主な地域的経済統合」を活用して、それぞれの広がりや規模について確認できるよう指導する。	・地域経済統合の基本的な理解に基づいて、地域経済統合の現状や課題に関する必要な知識を身に付けている。	・地域経済統合の基本的な知識を用いて、EUを事例に発展過程と問題点について説明できる。また、EU以外の地域経済統合について、自ら調べ説明することができる。	
3 学期	2	64	p.194-195 4 グローバル化と自由貿易協定	経済のグローバル化はどのように進み、どのような影響を与えているだろうか。	・p.200-201「国内工場の海外移転にどう対応するか？」の主題などを活用し、グローバル化が国内産業に与える影響を多面的・多角的に考察できるよう指導する。	・経済のグローバル化に関する基本的な理解に基づき、グローバル企業の展開と課題について理解し、自由貿易協定の動向について必要な知識を身に付けている。	・経済のグローバル化と自由貿易協定の基本的な知識を用いて、その影響と是非に対する自らの意見や主張を、わかりやすく表現している。	
3 学期	2	65	p.196-197 5 国際経済の変化と課題	グローバル化が進むなか、国際経済はどのように変化しているだろうか。	・特に中国については、COLUMN「『超大国』中国の取り組みと課題」を参考に、国際経済に及ぼす影響について理解を深めることができるよう指導する。	・新興国の台頭や近年の国際経済の動向に関する基本的な理解に基づき、国際経済の変化と課題について考察するために必要な知識を身に付けている。	・新興国台頭の背景と、近年の国際経済・金融危機に関する基本的な知識を用いて、国際経済におけるパワーバランスの変化とそれによって生じる課題について説明することができる。	
3 学期	2	66	p.198-199 6 経済格差の是正	経済格差の是正に向けて国際社会はどのように取り組んでいるだろうか。	・発展途上国に対する経済援助の在り方については、図6「ODA（政府開発援助）の種類」やp.38-39導入「モノより『できること』を」を活用して、支援や援助の意義や目的にも触れることができるように指導する。	・国際経済における経済格差と貧困に関する基本的な理解に基づき、南北問題の発生の原因、格差の是正、先進国による発展途上国に対する支援と現状と課題について考察するために必要な知識を身に付けている。	・国際経済における経済格差に関する基本的な知識を用いて、南北問題の発生の原因、格差の是正について説明することができる。また先進国による発展途上国への経済支援のあり方について考え、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。	
第3部 持続可能な社会の実現に向けて（4時間）						・第1部、第2部の学習を振り返りながら、地域の創造、よりよい国家・社会の構築および平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見出している。	・第1部、第2部の学習を振り返りながら、課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、根拠を基に自分の考えを説明、論述している。	・第1部、第2部の学習を振り返りながら、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動に積極的に取り組み、持続可能な地域、国家・社会および国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体として、現代社会の課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
〈主題の例〉 「増加する医療費を誰が負担すべきか？」（教p.212-213「現代社会の諸課題」） 「パリ協定目標達成のために国際社会に必要なことは？」（教p.134-135「現代社会の諸課題」） 〈指導上の留意点〉 ・この単元は、第1部、第2部の学習を振り返りながら、第1部、第2部の各領域を横断する課題を探究する単元であり、「公共」のまとめとして、これまでの学習の成果を活用することができるよう十分な授業時数を確保することが必要である。						・これまでの学習で身に付けた知識を活用し、自らの関心に基づいて、より学習を深めることができる課題を設定している。	・課題に関する統計や図表等の情報を整理し、それに基づき自ら考え判断したことを整理して、レポート等の形でわかりやすく表現している。	
3 学期	2・3	66 70	p.204-211 課題探究学習の手引き		・課題に関連した統計や図表の収集・読み取りを通じて、主張を裏付ける説得力のある根拠を示すことができるよう指導する。			